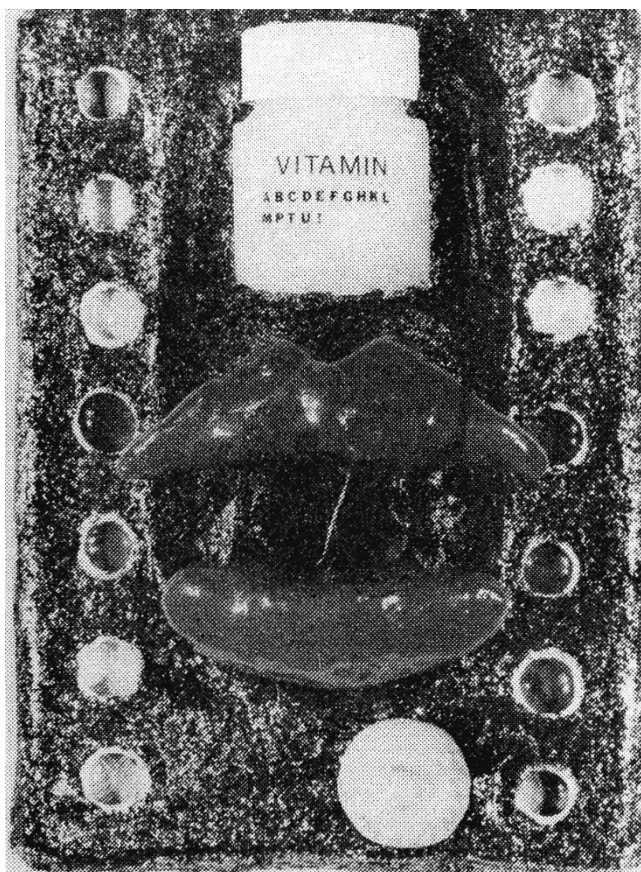


日本のアバンギャルド

「私はあなたに教えることは何もないマスターですが、私は創造のために最適な気候を作ります。」-具体美術協会の創設者、吉原治良
La Jolla / Michael McManus

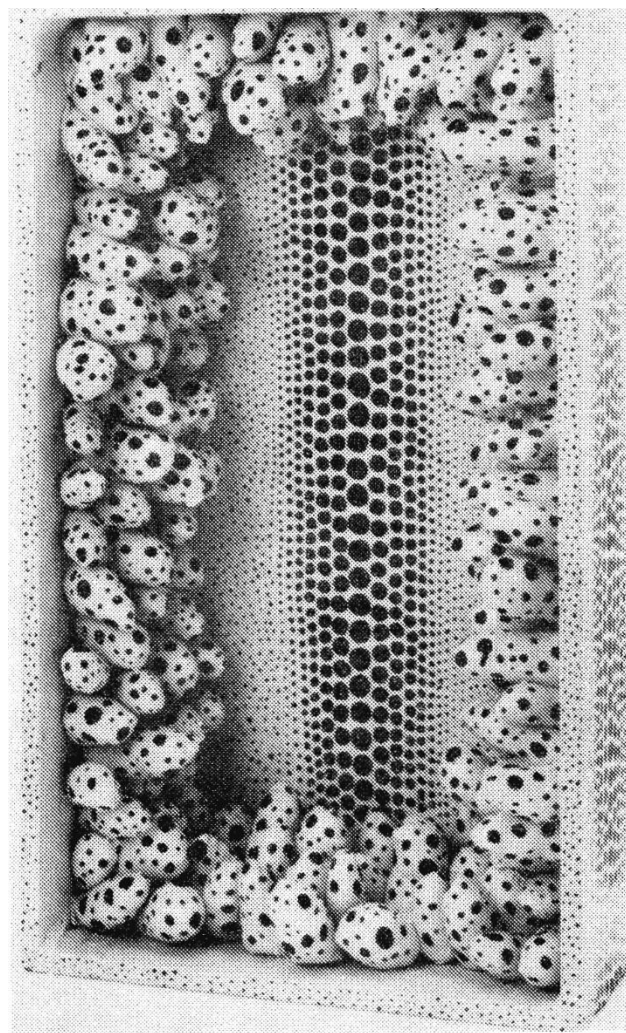


Ryoichi Majima, *Let Us Talk No. 48, Vitamin Crazy*, 1985, mixed media, 20cm x 14.5cm x 8.5cm, at Mandeville Gallery, University of California, San Diego, La Jolla.

Japanese Art Today は、5 人の生きている日本人アーティストと 1 人の舞踏グループの最近の作品の洗練されたサンプラーです。現在、カリフォルニア大学サンディエゴ校のマンドビルギャラリーで展示されているこの展覧会では、角永和夫、草間彌生、間島領一、滑川五郎（山海塾のソリスト）、白髪一雄、吉田克郎の作品が多数展示されています。人気のある想像力の中で極東の芸術に関連する特徴。逆に、ここにはヨーロッパとアメリカの前衛に関連するものがたくさんあります。しかし、最もエキサイティングなのは、日本独特で現代的な作品に共通する実用性や具体性があります。この品質は、特定のフォームや素材の選択というより

も、態度やスタンスです。アート制作の過程で一時的な「存在感」を維持することが、この姿勢の中心です。文体の幅は、この展示のより強力な特徴の 1 つです。1950 年代初頭から 1970 年代半ばにかけてプロとして登場した展示アーティストは、具体、もの派、舞踏、60 年代のニューヨーク駐在員の作品、そして私が「本質主義。」ほとんどのアーティストはユナイテッドと強い関係を持っています。

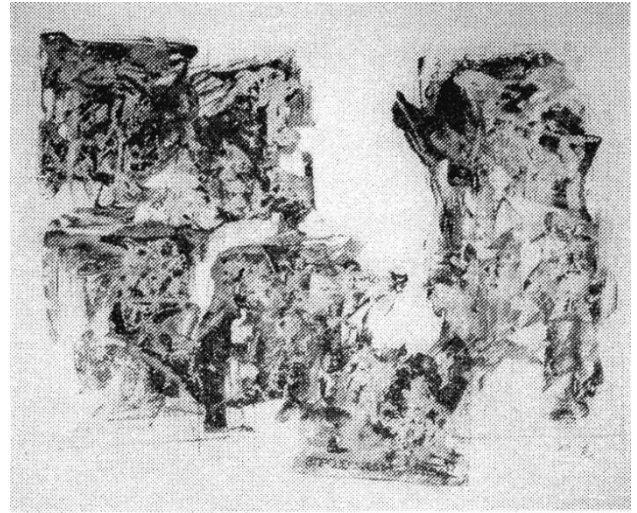
州および/またはヨーロッパ。角永（本質主義者）はロサンゼルスでスペースギャラリーに代表され、南カリフォルニアで数多くのショーを行ってきました。草間は 1960 年代のニューヨークのハプニングシーンで著名な人物でした。真島は 1981 年にオーティス美術館で MFA を取得し、山海塾は主に西欧とアメリカで名を



Yayoi Kusama, *Midsummer*, 1983, mixed media, 60cm x 35cm x 15cm, at Mandeville Gallery, University of California, San Diego, La Jolla.

馳せてきました。日本画は、伝統的な石細工や細工の彫刻品と同様に、ショーに目立って欠席しています。

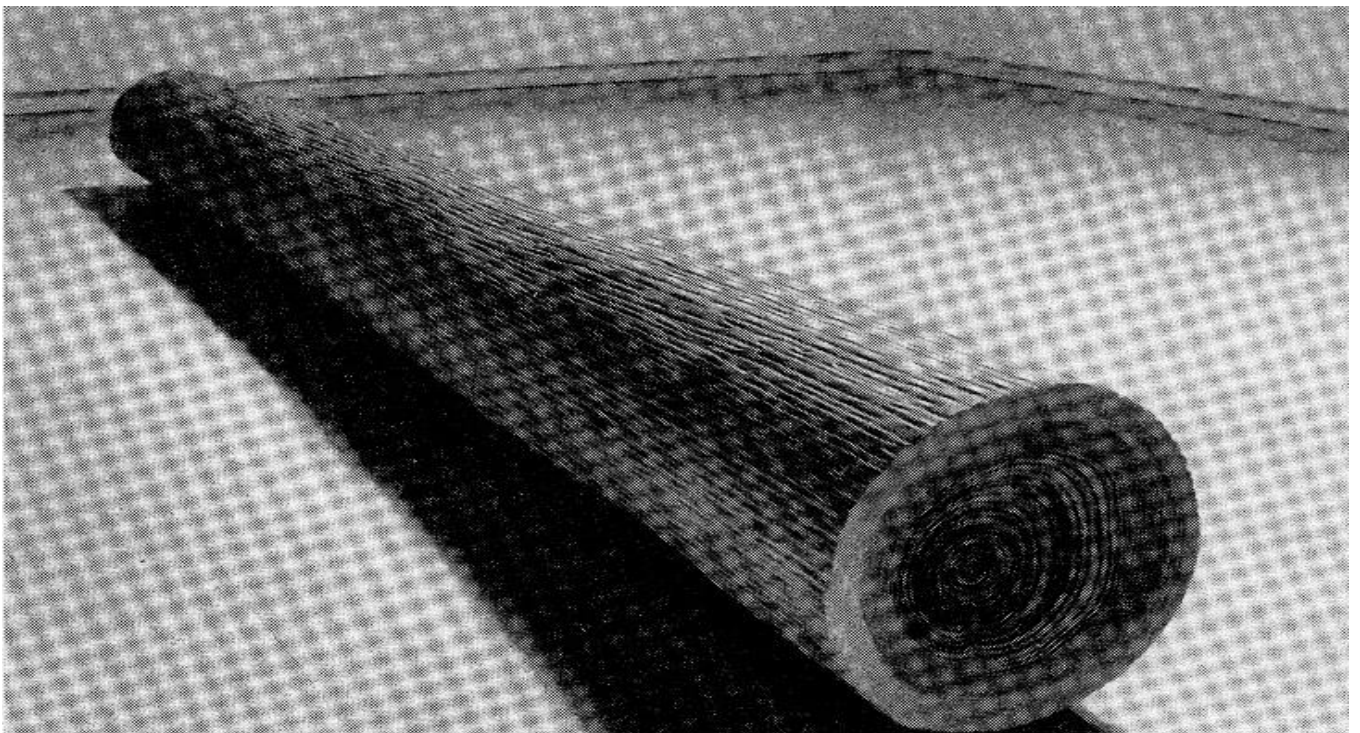
(しかし、1985年からの一連のミニチュアコラージュでの吉田の絵の具とさまざまな種類の金属箔の使用は、角永の木の彫刻と同様に、伝統的な形に穏やかな皮肉な言及をしています。) Mavo (1920年代初頭の大正時代のダダ) はマンデビルのショーには登場しませんが、生き残った開業医の年齢を考えると、これは理解できます。もう少し残念なのは、1960年代初頭の東京のネオダダリストがいないことです。ハイレッドセンターとゼロ次元グループの作品は、パフォーマンス、政治、挑発に対する彼らの好みを共有するカリフォルニアのアートオーディエンスにとって特に興味深いものになるでしょう。しかし、これらの省略は、展示会の主催者ではなく、パブリックアートの現在の悲惨な財政状況に起因するものであり、より包括的な調査を提示することを喜んでいることは間違いありません。同様に、作品の適度な規模は、アート界がクレート、送料、保険のコストで経験している実際の危機の指標であり、過去10年間で、スーパースター以外のステータスのアーティストによる作品の現実的な価格をはるかに上回っています。特に注目すべき作品はdifです。全体として、これらの日本のアーティストの作品はローテクであり、国の実証主義的テクノクラートとは正反対の態度を体現しています。この展示では、山海塾のビデオテープの編集に数十の不具合が



Katsuro Yoshida, *Untitled*, 1980, acrylic and collage on paper, 31"x 43", at Mandeville Gallery, University of California, San Diego, La Jolla.

あります。真島の電気工事はすべて壊れているか、故障しています。すべて手作業(または徒歩)で作られています。山海塾の振付師・天児牛大さん。自分と物質界との間の距離を克服するための人間の闘争。」吉原治良は「具体美術において、人間の精神と物質は対立を通じて融合する」と主張している。

日本のアートトゥデイには見られないことの1つは、1960年に東京のネオダダリストが「虐殺から免れる唯一の方法は暗殺者の側に立つことだ」と主張するマニフェストを発表したときの皮肉な共犯です。



Kasuo Kadonaga, *Wood No. 12D*, 1981, 118"x 11-3/4", at Mandeville Gallery, University of California, San Diego, La Jolla.